



ぜんぶのいのちと、ワクワクする未来へ。

いっしょにいくで!

大阪・関西万博!! 届け! ボランティアの魅力!!!



笑顔でボランティア活動語る山本啓一郎さん

山本さんは、こども食堂の運営やひとり親家庭への食料配達など、行政や社協、関係団体とも協力し、子育て家庭の支援も行っています。「届いた食材を見て、まだ生きていて

子育て家庭を支える

高齢者大学を修了した人たちが、民生委員・児童委員、ボランティアとして活動をはじめると、なわて高齢者大学は地域活動の担い手を養成する場にもなっています。

地域の担い手をつくる

自分の地域を知り、社会に貢献したいという地域の高齢者のニーズに応えるため、令和元年に、市の公募型協働のまちづくり提案事業に応募。なわて高齢者大学を立ちあげました。現在は会員の受講料で、自主運営をしています。

大阪府市町村ボランティア連絡会は、ボランティアの魅力を発信する“大阪・関西万博の共創チャレンジ”に、取り組んでいます。

今回は、ステージで活動発表する銭廣幸壮さん(高石市)、山本啓一郎さん(四條畷市)、芦田三雄さん(和泉市)にボランティアの魅力と大阪・関西万博で伝えたいことを伺いました。

You can do it!

ボランティア活動は、主体的に自分にできることをできる範囲で行う活動です。活動を通して「~のために」から始まり「~と共に」に変化し、ボランティア自身の健康づくり・生きがいづくりにもつながります。



大阪府社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センター運営委員会 新崎 国広 委員長

共創チャレンジ ちょこっとボラ活 はじめませんか?

共創メンバー 株式会社島本保険事務所、三井住友海上火災保険株式会社、41市町村社協、27市町村ボランティア連絡会、大阪府共同募金会

開催日: 令和7年7月24日(木)

開場時間(ブース展示時間): 10:00~21:00

ステージ発表: 13:00~14:30

会場: 大阪・関西万博内

フューチャーライブ

ヴィレッジ

詳細な内容はこちら▶



高石市 町の便利屋さん誕生!

高石市ボランティア連絡会会長の銭廣幸壮さんは、「町の便利屋さん」として、高齢者や障がいのある方などの、生活上のちょっとした困りごとをお手伝いするボランティアとして活動しています。

全国を駆け回る仕事で忙しくしていた銭廣さんは、家族からの「これからずっと寝ているの?」という一言がきっかけでボランティア活動をスタート。すぐに、社協のボランティアセンターに登録し、1年後には社協やボランティアと協力し、有償ボランティア「町の便利屋さん」を立ちあげました。

交流を大切に

依頼内容は、障子の張替えや草取り、室内の整理整頓など、依頼者の二いいんだと思えました。配達から帰ってきたときに届いた母親からのメールに、山本さんは涙を流し、活動の意義を感じました。ひとり親家庭では、経済的な困窮の他に、経験格差も大きな課題だと感じています。そこで、クリスマスなどのイベントを、体験と学びの場となるように、企画・実施しています。

ボランティア・市民活動センター内のデスクに座る銭廣幸壮さん

みんなのじいじ

長年の活動で、地域の人から「じいじ」と気軽に声をかけてもらうことがうれしく話す山本さん。ボランティア活動に大切なことは、仲間の存在だと語ります。

「人と人がつながり、よろこびを分かちあひ、こどももまんなか社会をつくりたい」山本さんの熱い思いは大阪・関西万博の会場でも来場者の方に届けられます。

和泉市

自分を生かせるボランティア

和泉市ボランティア・市民活動センター「アイ・あいロビー」は、ボランティア・市民活動の拠点として、地域住民で企画・運営をしています。

人や社会とつながる

「困っている人をサポートしているのではなく、自分の心を育ててもらうんです」と活動の魅力語る銭廣さん。活動を通して、人と心が通いあうこと、人や社会とつながることにやりがいを感じています。

令和6年度の活動は1,183件で、のべ115人の協力会員が活躍しています。核家族化・高齢化の進行で、支援を必要とする方が増え、ニーズも増加することが予想されます。

銭廣さんは、「ちょっとしたきつかけが一步踏み出す手助けになること」を、大阪・関西万博で伝えたいと、熱く語ります。



「アイ・あいロビー」は「出会いの場・交流の場・学びの場」と話す芦田三雄さん

委員長の芦田三雄さんは、子どもの時のボーイスカウトから、PTA、自治会、保護司などさまざまな地域活動に取り組みできました。退職後、本格的にボランティア活動をスタート。地域をもっと知りたい、自分の知識や能力を生かしたいという思いから、多くのボランティア団体で活動しています。

地域をつなぐコーディネート

ボランティアという地域の活動者として、行政や社協、自治会など関係性をつくり、つながりの中で活動をつくらせてきたと語る芦田さん。大切にしていることは地域をつなぐコーディネーターだと話します。

多様な団体と連携・協働を図る協働推進部会の部長として、桃山学院大学の学生と一緒に子どもたちへのイバ

ボランティアの魅力は?

友達ができる!

経験が学びに!

銭廣会長のサポートがすごい!



「町の便利屋さん」のメンバー 左から、飯坂登志代さん、吉野治彦さん、銭廣幸壮さん、久保田知子さん

四條畷市 暮らしを営むための町

四條畷市ボランティア連絡会会長の山本啓一郎さんは、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象に、ボランティア活動を行っています。

退職後、保健センター主催の健康講座に参加し、その仲間とウォーキングの会を立ちあげたことから、活動がスタートしました。

「働いていた時は寝るために住んでいた町が、暮らしを営む場所が変わった」と、山本さんは当時の心境を振り返ります。

子どもたちへの福祉教育

また、芦田さんは、アイ・あいロビー福祉体験グループの一員として、地域の方や社協とともに小中学校の福祉体験学習も実施しています。子どもたちが、車いすやアイマスクなどの体験を通じて、障がいのある方や高齢者について理解を深め、自分のことのように考え、誰にでも思いやりをもって自然に行動できるようにしてほしいと企画・立案し、取り組んでいます。

地域共生社会をつくる

子どものイベントに参加してくれた保護者が、ボランティアとして参加してくれるなど、少しずつ地域でつながりができてきていることを実感していると話す芦田さん。

「できる時にできることをして、『ありがとつ』と言ってもらえることがボランティアの魅力。地域共生社会をつくるため、『何かお手伝いできますか?』と気軽に声かけできる地域の大切さを伝えたい」大阪・関西万博に向けた意気込みを芦田さんは熱く話します。